第３回那須烏山市総合政策審議会 会議録

■日　時：令和４年 10 月 12 日（水）午後２時～３時 30 分
■場　所：烏山庁舎 第２会議室
■出 席 者：11 名
（審議会委員）
中村祐司委員、赤羽幸雄委員、中村泉委員、髙橋正泰委員、小田戸豊行委員、髙橋信一委員、
島崎健一委員、大嶋照夫委員、大橋誠委員、水井智久委員、佐藤哲男委員
※欠席：４名（渡邉和枝委員、加藤光一委員、小堀惠美子委員、保知範繁委員）
（事務局）
〇総合政策課：菊池参事兼課長、関主幹、郡司係長、田嶋主査、川瀬主事

■協議事項（概要）
（１）第３次総合計画基本構想骨子（案）について
【将来推計人口】
郡司係長）　第３次総合計画基本構想骨子（案）について、資料に基づき説明。
委員）　将来推計人口について、資料１の人口移動の設定根拠において、「本市においては、県の設定した収束時期よりも５年遅れた時期を収束時期と設定する」とあるが、なぜか。
郡司係長）　本市における人口移動の状況において、県に合わせるという方法もあるが、現状に鑑みると県と同じ時期に収束するとは考えにくいため、現状に即した時期として、県よりも５年遅い設定とした。
委員）　転入者には転入してくる理由があり、転出者には転出する理由がある。そこを調べることができるのは市だけなので、深く調べた方がよい。先日、生涯学習課から、育成会に関する調査結果が自治会長あてに送られてきた。それを見ると、子どもの数の地区ごとのばらつきが大きい。南那須地区は鴻野山地区、八ヶ代地区、南大和久地区が、烏山地区は高峰地区、野上地区が子どもの数が多い。一方で、将来都市構造の２拠点とも、子どもの数が少ない。子どもの数が多い地区は、住みやすい場所を選んだ結果として増えていて、将来都市構造上の拠点として考えている地区が住みにくいと感じて他に出ている可能性もある。そういったところの分析が必要。
郡司係長）　地区ごとの集計も取ることも可能なので、人が多い地区・少ない地区の理由を分析し、事業に反映していきたい。
委員）　私は鴻野山地区に住んでいるが、この半年間で２世帯が引っ越してきた。鴻野山地区は住みやすく、ホンダや清原工業団地に通勤している方が結構いる。宇都宮方面に職場がある方が、渋滞等を考慮してこちらに住んでいるケースが多いのかなと思う。本市の中でも鴻野山など高根沢に近いエリアは、宇都宮市の衛星エリアのようなイメージがある。これらの地区に住宅支援などの施策を入れれば、より人口増に繋がると考える。

【計画の基本理念】

会長）　基本理念について、個人的には、「持続可能なまちづくり」だと、まちづくりを持続可能にするようなイメージになってしまうので、「持続可能なまち」といった表現の方がよいのではないかと感じる。

委員）　「”持続可能な”まちづくり」を「”持続可能なまち”づくり」という表現にするのも１つだと思う。基本理念は誰に向けて設定するものか。まちづくりに関わる人たちに向けたものか、広く市民に向けたものか。市民向けとするならば、高根沢町の「ざわつく町たかねざわ」のような、もっとキャッチーな内容にしても良いのではないか。

郡司係長）　いわゆるキャッチフレーズということであれば、目指すべき将来像の方がそれに近い位置付けになるかと思う。

関主幹）　現時点において本市が持続可能な状態にたどり着いていないため、未来志向型の取組を行い、市民の満足度が一定のレベルに達した後にそれを維持していくというストーリーにしたいと考える。一定のレベルまで伸びあがっていく５か年間を目指すべき将来像で表し、一定レベルに達した後に維持していくところを基本理念で表したものである。

委員）　協働「による」という言葉があるので、協働によって何をするかという文言になると思う。そうすると、「持続可能なまち」ではなく、「持続可能なまちづくり」の方が合っている。基本目標達成のための重点戦略にも繋がってくるので、「持続可能な」というワードは非常に重要だと考える。

委員）　市民に向けるのであれば、もう少し行政っぽくない方がよい。「まちづくり」と「ＤＩＹ」という言葉は合うので、「なすからまちづくりＤＩＹ」といった表現もいいと思ったが、これはもっと先のプロモーションといったところで使うべきなのかなと思う。

関主幹）　必要な生活水準を維持しつつ、他市町に比べても遜色ないまちづくりを持続可能な範囲内でやっていくというスローガンとしては、派手さはないものの、これまでの意見等を踏まえると、「持続可能」というワードが基本理念に適しているのではないかということで、案として設定させていただいた経過がある。

委員）　関主幹の説明を聞いて、これまでの経過を考えると、確かに合っていると思う。市民との意見交換会の中で出た意見にも合っている。

【５年後の目指すべき将来像】

会長）　個人的なフィーリングでは、「市民が主役のまち　那須烏山」とあるところを、「市民が主役　那須烏山」又は「主役は市民　那須烏山」とするのもよいのではないかと感じたところ。

関主幹）　将来像は、市民に対して公表し、共感を得ていただく本質的な部分になる。意見交換会に参加していただいた方々の「しっかり市民の声を聞いた上でまちづくりを進めてほしい」という思いを忘れてはいけないということと、前回の審議会で出た「未来につなぐ」「未来を照らす」といったキーワードから、「市民が主役」「未来」というワードは外せないのではないかと考えている。

【将来都市構造】

委員）　南那須の都市生活拠点エリアに「文化」とあるが、烏山の都市活動拠点エリアに入れるのがふさわしいのでは。烏山には山あげ祭という大きなコンテンツがあるので、文化の創出という意味では、烏山が担っていると思う。

関主幹）　新市建設計画という合併時の計画があり、その計画をこれまで踏襲してきているという部分がある。「文化」について、山あげ行事や烏山城跡などの存在を考えたときに、烏山地区の方がなじむというのも一理ある。両市街地の役割分担を見直すきっかけとしてはいいかもしれないが、烏山市街地と南那須市街地を維持していくというのは避けられないと考えている。中心市街地を活性化させ、周辺地域に住む方々の買い物をする場所や外出先を再生することで、新たなまちづくりがスタートするというのもあると思う。行政にしかできないインフラ整備を行って民間進出を誘導し、両市街地に人が集まる拠点を整備することは市民が望んでいるところではと考えている。この２つの市街地が衰退すると、一気に市全体が衰退してしまうことが懸念される。

委員）　個人的には、買い物は大金地区ではなく、高根沢や宇都宮方面に行ってしまう。住んでいる人間から見て、大金地区に魅力を感じない。スーパーもかましんしか無いが、烏山地区にはより大きなベイシアがある。南那須図書館を利用しない限り、大金地区は足が向くエリアではなくなっていると思う。

委員）　買い物は、南那須地区の北側の住民はさくら市に行き、南側の住民は高根沢・宇都宮方面に行っている。南那須地区全体が宇都宮の衛星エリアであり、宇都宮の文化圏になっている。ちょっとした買い物は宇都宮の東エリアに行けば全てできてしまう。従って本市の西側は、ベッドタウン化して住宅が増えていく可能性がある。

委員）　烏山市街地は拠点としてあっていいと思うが、個人的には、南那須市街地はすでに拠点ではなくなっていると思う。２つの市街地にこだわるのならば、もっとインフラ整備をしないと、市民ですら足が向かない。

委員）　ここでの議論が、行政が考える行政機能を含めた都市拠点機能と、一般市民から見た商業施設やマーケットといった見方とでズレがあると感じる。私は烏山の街中で育ったが、昔は、烏山市街地は多くの人で賑わう中心市街地だった。昔の方であればそれがわかるが、転入されてきた方や若い方にはそういった認識はない。そこにだいぶ違いがあると思う。買い物に行くにはという視点と、庁舎を含めた行政サービス的な視点とで差がある。時間をかけて議論をしていかなれければならないのかなと思う。

関主幹）　買い物はどうしても宇都宮方面に出てしまうというところもあるが、市の拠点として構えなければならない庁舎や市民の憩いの場となる公園の整備、道路のバリアフリー化をはじめとする高齢者でも住みやすいまちには遠く及ばないため、外に行ってしまうというのもあると思う。ＪＲ烏山駅・大金駅を中心に公共施設をはじめとするインフラをしっかり整備し、安全安心で快適な中心市街地を再生する必要がある。その上で、どうやってそこに人を呼び戻すかについて、商業施設など民間も巻き込んだ取組が必要である。まずは、市民からの要望が高いインフラ整備について、行政の責務としてやっていかなければならない。一定水準の生活基盤を両市街地で整備する必要があるという考えで設定した将来都市構造である。

委員）　将来都市構造の設定は重要な問題である。この設定によって、人の流れなども変わってしまう。将来都市構造の前に、将来推計人口の話があったが、令和 42 年に人口が 11,000 人を切るかどうかといった中において、11,000 人足らずの人口で２つの拠点が維持できるのかという疑問がある。我々も烏山に支店を構えている以上、烏山市街地は維持していかなければならない。そこに南那須市街地も両輪で維持していくとなると、本市にそこまでのポテンシャルがあるのか、慎重な議論をしていく必要があるのではないかと思う。

委員）　福祉の観点から言うと、南那須地区の若い方は宇都宮方面に買い物に行っていると思うが、高齢者は宇都宮までは行かないし、近場の店に行っている。身の回りの相談といったことも、当然だが宇都宮ではなく本市の窓口に相談することになる。人口推計と合理性の観点から、将来的には議論になる可能性があると思うが、今の時点では、大金に住んでいる方が歩いて相談に行ける窓口があるという意味では、大きい部分があると考える。

委員）　今までの経緯があって、烏山市街地・南那須市街地ができている。第３次総合計画は、５年後までの計画である。将来的には議論が必要になる時期が来るかもしれないが、５年後であれば、やはり烏山市街地・南那須市街地の２つの拠点を置く将来都市構造を維持していくべき。その方が市民にとってもメリットがあると思う。

委員）　将来都市構造は中長期的なものとしてこのとおり設定しつつ、庁舎や体育館、子育て施設など、短期的に取り組まなければならない課題に対応していくことが求められる。

（２）基本構想骨子を踏まえた重点戦略について

郡司係長）　基本構想骨子を踏まえた重点戦略について、資料に基づき説明。

関主幹）　事務局側がイメージを膨らませるために叩き台として作ったもので、具体的な内容については、委員の皆様からご意見を賜りながら、追加・拡充していくことを想定している。SDGs の考え方に沿ったまちづくりをしなければならないという全国的な傾向があるため、それぞれ SDGs のどの項目に当てはまるのかを記載してある点が、これまでとは異なっている。

委員）　農業関係のところで、「農業の担い手の育成」を入れてほしい。

委員）　根本的な問題として、人口が減り続けると持続できなくなってしまうので、人口減少抑制又は人口を増やすということが一番にこなければならない。移住しやすいまちにすることも重要で、移住するには住居が必要だが、烏山には住宅用地があまりないのが現状。移住希望者に対して土地の斡旋ができるよう住宅用地の確保に取り組むことで、人口増に寄与できるのではないかと考える。

委員）　「未来につなぐ健やかな暮らしを支える」項目の中に入るのだと思うが、医療のことがあまり触れられていないのが気になる。医療のウェイトを置いた文言を入れていただきたい。大金地区に医療の拠点を設けるのもいいと思う。

関主幹）　市内の民間医療機関について、大金地区もそうだが、かかりつけ医と呼ばれるところが減ってきている。以前ご意見をいただいた婦人科の誘致についても、課題として

は記載しているが重点戦略には記載がないので、前向きに検討を進めているという実情も踏まえた上で、計画に盛り込めるように調整させていただきたい。

委員）　「未来につなぐ持続可能な行財政運営を築く」の項目で、「◇オール那須烏山体制による協働のまちづくり」「◇広報・広聴の再構築による市民主体のまちづくり」とあるが、行財政運営とは、予算や税収、行政の仕組みそのものという意味だと思うので、この項目の中にあるのは違和感がある。この項目内に括るのではなく、全体にかかってくるような表現にすべきではないかと思う。また、「◇効率的・効果的なデジタル・ガバメントの推進」とあるが、市民生活においてもデジタル化が進んできているので、地域全体が世の中のデジタル化についていけるような市民向けの施策があるといいと考える。

（３）その他

委員）　市では、市民の意見を聞こうという姿勢を強めてくれていると思うが、課によって対応がだいぶ違うと感じる。私は、福祉関係の計画の策定委員になっているが、一度も委員会が開かれていない。総合政策審議会だけはきちんと開催していただいて、気持ちがしっかり伝わっていると思うが、課によってばらつきがあるのは、非常に残念に思う。

■その他

関主幹）　骨子案について、今回いただいたご意見を含め、今後予定されているタウンミーティングでの意見も踏まえながらまとめていきたい。進捗状況にもよるが、合計６回程度の審議会をもって成案化していきたいと考えている。今回、多くの宿題をいただいたので、もう一度精査させていただき、文言等のブラッシュアップを図りたい。

以上、記録とする。